

安芸市福祉事務所
 所長 山崎美佳 様

安芸市立伊尾木保育所
 所長 岡林佐智子

令和3年度 伊尾木保育所園評価報告書



1 保育所における自己評価の記録

月	自己評価	月	自己評価
4月	○園経営計画の作成 ○本年度の重点目標の設定（園評価） ○園評価の項目・指標の設定 ○職員への園経営計画・園評価の説明と理解	11月～ 12月	○保護者へのアンケートの実施
6月	○保護者へ園評価の説明	1月	○アンケートの集計・分析 ○最終評価の実施
8月	○中間評価の実施 （職員の自己評価・園の自己評価）	2月	○保護者へ園評価結果の報告 ○設置者への報告・改善策の検討
9月	○設定者への中間評価報告・改善策の検討		

2 評価結果

○総括的な自己評価結果について

<成果>

① 保育・教育活動の充実

生活や遊びの中で一人一人の姿を認め、各々の良いところや個性に気づく子ども・自分の気持ちを素直に表現できる雰囲気づくりに努めた。園評価のアンケートでは、運動会をはじめ各行事を通して心身共にたくましくなることで自信となり、自分の思いを言葉で伝えるようになったと意見があった。

② 職員の育成・資質向上や運営

それぞれが担当した業務において、自分の役割に自覚を持ち取り組んだ。
 分からない点や困ったことがあると先輩の保育者に相談できる職場内の環境ができてきた。

③ 地域に開かれた園づくり

昨年に引き続き小学校教諭の保育所訪問を実施し、子ども達の日頃の活動（遊び・生活等）を見てもらい幼児期に大切にしたいこと等を話し合い情報交換ができた。

<課題・改善策>

① 保育・教育活動の充実

園評価アンケートでは、『家庭であまり絵本を読んでいない』が25%あった。
 保育所では、絵本の読み聞かせや、絵本の貸し出しを行なっている。今後は、読みやすい昔話や短いストーリーの絵本のコーナーも設置する等、貸し出し方法も工夫しながら親子での絵本へふれあう機会を増やしていく。

② 職員の育成・資質向上や運営

保育や環境に関するアンケートの回答内容を確認・分析し保護者のニーズを明らかにしより良い保育所となっていくよう園全体で取り組む。

③ 地域に開かれた園づくり

小学校との交流において、よりよい連携ができるようにねらいを明確にした交流をしていく。

園評価 (伊尾木保育所)

経営の柱	今年度の重点目標	評価項目	評価指標と評価結果				分析・考察
			取組指標	結果	成果指標	結果	
☆保育・教育活動の充実	身近な環境と関わる中で豊かな心と丈夫な身体を育てる	【健康管理】 日常の感染予防・衛生管理	4 子どもの健康観察をすることで、疾病の早期発見と予防に取り組む	3.8	4 子どもの健康観察をすると共に、保護者との会話の中で健康管理を把握し、予防する	3	・子どもたちの体調変化に注目しながら保護者と情報交換をおこなった。 ・毎日の検温・消毒の習慣化に努めてきたが、家庭での検温については習慣の確立には至っていない。そのため登所後保育士が、検温を行いチェック表に記入してきた。今後も家庭や保育所での様子について、保護者と引き続きコミュニケーションを取りながら健康への意識を促していく。
		3 疾病予防に取り組む、衛生管理にも気をつける	3 子どもの健康観察をすると共に、保護者との会話の中で健康管理を把握する 70%以上				
2 疾病予防に取り組む	2 子どもの健康観察をすると共に、保護者との会話の中で健康管理を把握する 40%以上						
1 健康観察をする	1 登所時に子どもの健康観察をする						
		【援助】 一人一人の子どもの個性や発達、支援のねらい等に適した支援を行う	4 その子どもと周りの子どもとの関係を意識しながら集団で一人一人をいかした援助をする	3.8	4 半数以上の子どもが友だちの良さに気付いたり受け止めたりしながら自分の気持ちを表現するようになった	4	・遊びや活動を通して、一人一人の姿を認めることを繰り返していく中で、友だちの良さや個性に気づく子どもが増えた。又、それぞれの子どもの自分の気持ちを素直に表現できる雰囲気づくりに努めてきた。
3 一人一人の個性や発達を捉えその子らしさを大切にしたい援助をする	3 半数以上の子どもが友だちの個性に気付くようになった						
2 反省・評価や記録の整理をして、子どもの理解を深める	2 半数以上の子どもが自分らしさを発揮するようになった						
1 明るい笑顔で子どもを迎え一人一人とコミュニケーションをとる	1 半数以上の子どもが自分の好きな遊びを見つけて楽しむようになった						
◆職員の育成・資質向上や運営	共通課題に向かう職員の協力体制づくり	【研修】 職員間で研修内容を共有し、主体的に取り組む	4 月1回以上	3.5	4 研修内容を話し合い、保育の実践にいかした 75%以上	3.8	・研修内容について感想や意見を職員会議で報告した。 ・情報共有したことを園として実践にどう活かすか具体的な取り組みを検討してきた。
		3 月1回程度	3 65%以上				
2 2ヶ月に1回程度	2 50%以上						
1 3ヶ月に1回程度	1 50%未満						
		【情報提供】 園に関する様々な情報を発信する	4 保護者にアンケートを出し、振り返りを行い改善する	3.5	4 アンケートや意見を求め、保育の改善ができた	3.8	・日々の子ども達の様子や行事内容をおたよりや登降所時のコミュニケーションの中で保護者に知らせた。 ・保育や環境に関するアンケートを実施し保護者のニーズを明らかにした。 ・今後の保育実践や保育所運営の改善をしていく。 (引き続き生活習慣・絵本の読み聞かせ等重点的に取り組む)
3 行事便りを発行する	3 行事の取り組みが分かる便りを発信した						
2 園・クラス便りを発行する	2 子どもの姿が見える便りを発信した						
1 保育内容を話す	1 子どもたちに対して、何を大事にし保育をしているか保護者に話せた						
◎地域に開かれた園づくり	保護者や地域に開かれた園づくり	【保護者との連携】 子ども達の姿や保育への理解を深める機会をつくる	4 必要に応じて、家庭訪問や面談を行う	3.3	4 子育ての相談をしてくれる保護者 75%以上	3.3	・保護者との日々の会話の中から子育ての悩みや、保育所への願いを聞きだしより良い方向に向かう事で、連携や理解が深まった。
		3 子どもの様子や子育てについて、連携・共有できる機会を設ける	3 50%以上				
2 保育の情報を分かりやすく発信する(園だより・クラス便り)	2 35%以上						
1 登降所時に子どもを中心とした話をする	1 35%未満						
		【小学校との連携】 相互の理解のもと子どもの育ちを、就学に向けてつなげる	4 保小連絡会や体験学習等を通して情報交換する	3.5	4 課題を共有しスムーズな接続につなげることができた	3	・小学校教諭の保育所訪問を計画・実施し、子どもの活動(遊び・食事)を見学をした。その後、幼児期に大切にしたいこと等話し合い、課題を明らかにしてきた。 ・資料を作成し連携のねらいを明らかにする事で、児童への支援についてより深く情報交換ができた。
3 職員間で交流し情報交換する	3 園の課題や子どもの育ちを振り返り発達を見つけた保育の実践につなげた						
2 研修を通して理解する	2 接続に関連した学習を通して理解につなげた						
1 行事を通して交流する	1 年長児が小学校を身近に感じる事ができた						